

令和元年度 提案型協働事業 質問・回答

		質問		回答
国田地区の名所・史跡探訪を通じた魅力再発見プロジェクト	委員	歴史案内看板を設置するときに、昔と今で設置場所の状況が変わっていることでの苦労はありませんでしたか。		提案団体 昭和58年頃から国田史編纂会が国田地区における史跡の再発見調査を開始し、その結果を平成2年11月発行の『国田史』にまとめた。当時は個人情報などを問題視することも少なく、看板設置や資料提供など積極的に行えました。以前、国田史編纂会が立てた看板があったことを伝え、やむなく同意を得たところがあります。その一方、新たに看板を設置するところで、少し離れた場所にしか立てられない案件もありました。
	委員	今後の活動を次世代に繋いでいくことは考えておられますか。 ※国田地区の若い方に尋ねてみると、「最近看板が増えているとは思っていたけれど…」と少し認知度が低いような気がします。		提案団体 国田地区の若い世代だけでなく、過去があつて今があることを余り意識せずに過ごしている方が多いように思われます。新型コロナウイルス感染防止のため、各種メディアが昔の映像を流す機会が増えましたが、歴史看板などを通して、過去を知り・今があつて・未来につながることを再発見する時代だと思えます。史跡探訪マップを作成し、全戸配布しながら事業の広報活動をしていきたいと思えます。
	委員	歴史案内看板の設置予定箇所で、地主の了解が得られない場合はどのようにしていましたか。		提案団体 平成元年度事業で地主の了解が得られない場所がありました。地主とは以前から良く知っている間柄だったのですが、親の代に水戸市や茨城県と道路拡張の件でトラブルがあり、看板を立てることによりまたそのことを思い出してしまうとの回答でした。よって、近くの県道歩道部分に道路占有許可書を水戸市からの申請で行うことにより、スムーズに運ぶことが出来ました。
	委員	事業の目的である、歴史文化遺産を地域の将来を担う子どもたちへ繋いでいくには、参加者についての年齢層や人数を数値化し、アーカイブとして公開情報により残していくことが必要だと考えますがどうでしょうか。 ※情報公開には、個人情報保護法など、いくつかの制約を加える必要もあると思えますが、ご検討いただければと思います。		提案団体 事業として、歴史講話と史跡探訪、田園ウォークin国田があります。参加名簿がありますので、Webページにより事業概要や参加者の統計情報などの公開を検討していきます。
	委員	プロジェクト内容は素晴らしく魅力ある活動だと思います。課題を上げるなら、団体組織の年齢層が気になりました。今後、若い世代へバトンを渡していくのに、何か対策や解決策などありましたらお聞かせ下さい。		提案団体 当会の組織メンバーは、高齢そのもので悩んでいるところです。国田地区から茨城大学や常磐大学に通学している学生もいますから、彼らと意見交換の場を持つこともできます。また、茨城大学では人文学部などが中心となり、学生から見た「地域おこし協力隊」などが活動しているので、地域連携として大学側との協力体制構築も考えています。

令和元年度 提案型協働事業 質問・回答

		質問	回答	
国田地区	委員	(令和2年度事業への質問) 令和2年度実施事業のバス研修について、賃貸方法や料金についてどのように進めていますか。	提案団体	バス1台(25人定員)を2台で11万円という予算(事前にボンネットバス保存協会理事長とメール)を事前に確認してあります。助成金の範囲で間に合うはずですが、しかし、遠方なのでもう少し高額になることも予想される。その際は、参加料2,000円程度で募集をかけ、助成金・参加料・自己資金の範囲内でバス研修旅行を企画したいと思います。
要配慮者のための災害時避難訓練 たすけてパスポートプロジェクト プロジェクトから	委員	とても良い取り組みだったと思います。しかしながら、実際の災害時に交番が機能しているのか少し心配になりました。災害時に交番が機能していなかった場合の対策やお考えなどはありますか。	提案団体	ご指摘いただきましたように、市役所だけでなく公共機関として警察やバス・JR等の交通機関との連携は不可欠だと思いますが、連携は取れていても状況に応じて機能しない場合も想定できます。 私たちの災害時避難経路として、南口交番が機能していない場合には、直接水戸市役所に向かって支援を求めることを共通理解として持っています。そのことが定着できるよう、水戸駅から水戸市役所までの一連の避難訓練を継続させ、要配慮者がいろいろな支援の選択肢を選べるように経験を積むことが必要と思いい、今後も避難訓練やたすけてパスポートの提示訓練を継続していきたいと思っています。
	委員	たすけてパスポートと一緒に携帯するように配布したヘルプカードには、個人情報の記載項目があるので悪用されないように気をつけてほしいと思いますが、行政担当課としてどのようにお考えでしょうか。	障害福祉課	ヘルプカードを紛失した場合には、所持者の個人情報が悪用されるおそれがあることは否定できません。一方で、ヘルプカードを所持している方は、状態が急変した場合や災害時などに、周囲の方がヘルプカードの記載内容を元に必要な援助につなげることがしやすくなることを期待できます。 ヘルプカードを所持することによるメリット、デメリットを所持者やその支援者が理解し、所持の適否や記載内容を、自ら判断することが肝要であると考えています。 そのため、ヘルプカード配布の際には、所持の適否を判断できるよう、メリット、デメリットを配布希望者にお伝えしていきたいと考えております。

令和元年度 提案型協働事業 質問・回答

		質問	回答	
要配慮者のための災害時避難訓練プロジェクト 茨城県水戸市モデル	委員	制度の長期的な啓蒙が必要と判断しながら、1年でわくわくプロジェクトを取りやめた理由を教えてください。	提案団体	当法人では障害者向け避難訓練を過去6年間行ってきました。初めてわくわくプロジェクトに参加しての避難訓練、たすけてパスポートプロジェクトを実施したところ、一般への啓発や普及に大きな手応えを感じました。しかしながら、天候や社会状況に応じて避難訓練を中止することとなり、イベント遂行の難しさも感じています。 わくわくプロジェクトとしての成果を十分認識できた上で、避難訓練の実施には状況に応じて臨機応変に予定が立てられる方法を模索するためにも、一旦わくわくプロジェクトから離れ、考える年度としたいと判断しました。
	委員	このプロジェクトを実行するにあたって、一番に苦労なされた点はどのような内容ですか。また今後、どのようなビジョンをお待ちですか？	事業団体	防災・危機管理課と障害福祉課の複数の担当課と協働事業を進めるため、日程調整や共通理解を図るのに、実際の事業よりも打ち合わせに時間を要しました。その点は、専門職アドバイザーの有賀先生にお願いして、参加者の共通理解を図りながら全体統括していただいたことで、プロジェクトを円滑に遂行することができました。複数の担当者がそれぞれの立場で参加するプロジェクトには、専門家による助言は不可欠だと感じています。 今回の事業は、要配慮者の一部である障害者（発達障害児・者）に焦点を当てました。その取り組みを一般市民の方にお知らせすることで、民生委員や高齢者支援センター、身体障害者の方達にも知っていただくことができました。今後は、高齢者や身体障害者など要配慮者全体が包括できるような、避難訓練の実施やたすけてパスポートプロジェクト会議の実施につなげていきたいと考えています。

令和元年度 提案型協働事業 質問・回答

		質問			回答
映画ケアニンを鑑賞して、在宅医療・介護・看取りを語る会	委員	多年代の介護者や医療従事者の理解が大切だと思いますが、参加者の年代割合を教えてください。		事業団体	10代 3%・20代 2%・30代 3%・40代 12%・50代 14%・60代 18%・70代 35%・80代超 10%・無回答 2%です。
	委員	団体の会員数が多いとはいえ、上映会数が多かったため、スタッフや専門職の確保は大変でしたか。		事業団体	当会の役員はほぼ全会場に関わりましたが、それとは別に開催地ごとに実行委員会を立ち上げ、一般会員は1~3回くらいの参加で負担感は多くはなかったと思います。 また、それぞれの実行委員会が地域の高齢者支援センターの力を借りたり、各個人のつながりの中で現地運営委員を確保していきました。
	委員	実際に映画上映を觀賞させて頂きました。有難う御座います。映画の後、皆さんとコミュニケーションが取れて、様々な意見交換が出来た事はとても有意義な時間だと思います。語る会の将来のあるべき姿について2, 3教えて頂きたくお願い致します。		事業団体	当会は、地域住民が元気なうちから医療・介護の専門職と知り合い、顔の見える関係を作ることによっていつまでも安心感を持ち続けられるよう、水戸市の協力を得ながら活動を続けてきました。しかしながら、市民のニーズが多岐にわたり、参加意欲を高められず活動の広がりを持てませんでした。 今回の事業はそのベースの上で、当会が市民と広く共有したいと思っていた看取りのテーマと、より市民が参加しやすい上映会と、これまで実施されてきたお話を組み合わせて実施しました。 今後も、地域住民と専門職が顔の見える関係作りを促進するため、中学校区における上映会の開催と、市民の安心感が持ち続けられるよう語る会を全小学校区での開催を継続していきたいと思っています。

令和元年度 提案型協働事業 質問・回答

		質問			回答
水戸の緑と野鳥の森整備事業	委員	素晴らしい取り組みをされています。この地域の将来の為に、今後何が必要だと考えますか		事業団体	この地域の子供たちに、山林を通して樹木の重要性を学ぶことと、市のこのようなプロジェクトに参加していることの意識を持たせることが重要であります。 市街地に近いこの山林の間伐や下草刈りにより、緑豊かな野鳥の楽園になることを期待しています。それには、毎年の維持管理費が必要になってきます。
	委員	市民が安全・安心で環境教育なども学べる憩いの緑地帯となる事と、トイレなどの整備が今後進めて行く必要があると思いますが、今後のスケジュールなどありましたら教えてください。		事業団体	自然多様性の中で、かかわり、ふれあい、人間としての豊かな感性と命の大切さを学ぶ場所です。危険と安全の知識を得、プラス思考で行動し、自然の中の強い子供に成長します。夏はマムシや蜂などが出現するため事業は冬期に行っています。夏の草刈りは大人だけです。 また、トイレは隣地の鈴木組(会員)を借りています。申請地内には構造物は造らず、造っても将来土に還る構造のものにしています。 里山整備で一番大切なことは継続することなので、絶やさず間伐や下草刈りをしていかなければなりません。それには、協働の地域の団体が中心になって里山の維持に努めてもらうよう期待しているところです。
親子で楽しむ森あそび	委員	森林公園の魅力を発信出来た事は、お互いにウィンウィンで良かったと思います。更に、公園などの利活用策があれば教えてください。		事業団体	森っこで開催している「森の親子ふれあいヨガ」は人気があります。6月に成沢地区で開催することが多かったです。新緑の中のヨガは本当にリフレッシュできますし、子どもと一緒に楽しめます。過ごしやすい季節に、森っことは別枠で定期的な開催も良いのかなと思いました。
	委員	全体的に、将来のビジョンについて、描いている事などをお聞かせ下さい。		事業団体	身近な自然を親子で楽しむ場として、参加者もスタッフも笑顔あふれる集まりを開催していきたいです。助成に頼るだけでなく、森っことして収入を得る方法を考えていきたいです。いくつか出ている案にチャレンジし、収入につなげ、活動の不足分を補えたらと思います。 また、今回ご意見いただいた「森林公園のイベントの一つ(市補助委託事業等)」も可能性のひとつとして、検討していきたいと考えます。

令和元年度 提案型協働事業 質問・回答

		質問		回答
茨城総合物産音楽フェスティバル2019 地産地消推進プロジェクト	委員	水戸柔甘ねぎは、スーパーマーケット等で購入することは可能でしょうか。		農業振興課 水戸の柔甘ねぎは、わたまる(旧名:渡里地区農産物直売所)、セイブ各店舗、ビッグハウス桜の郷店で販売しております。また、カスミ各店舗でも、販売することがあります。
	委員	コンセプトがあまり明確ではないような気がします。地産地消を推進することをメインにするならば、音楽のチケット代は少し高いと感じますがどうでしょうか。		事業団体 コンセプトは茨城の美味しい食(地産)と素敵な音楽を集めて「茨城」を体感していただき、交流人口の増加や地域振興を図ることを目的にしています。このコンセプトはスタート時から変わりません。 このイベントは音楽と地域振興を一体で考えていますが、集客となるメインは音楽ライブになります。2019年度開催の収支を添付(※詳細別紙)いたしますのでチケット代の件はご判断ください。 アーティスト誘致には1,200万円程経費がかかっています。 たくさんのボランティアさんや企業の皆様に協賛や無償協力をいただいております。
	委員	実際に県外から来られた人数が分かれば教えてください。		事業団体 県外から来水された人数は残念ながらわかりません。チケットが購入できるe+(イープラス=チケット予約・購入・販売情報サイト)で簡単なアンケートが可能なので、次回はデータが取れるようにしたいと思います。

令和元年度 提案型協働事業 質問・回答

		質問	回答	
茨城総合物産音楽フェスティバル2019 （地産地消推進プロジェクト）	委員	クラウドファンディングを協働事業として実施した理由を教えてください。	事業団体	クラウドファンディングは協働事業としての実施ではありません。クラウドファンディングを決定したときにコンセプトの茨城の美味しい食(地産)にこだわり、支援者のリターン(お礼)の中に水戸市内の農家さんの美味しい野菜の詰め合わせや地元の野菜を使ったBBQを体験にしてもらうことにしました。結果、水戸の野菜詰め合わせプレゼントやBBQ体験は大変好評でした。水戸の野菜にこだわったリターンなので協働事業内容とも合致し、地元のPRにつながったと思います。協働市担当課に水戸市内の農家をご紹介いただきました。
	委員	参加させて頂きました。音楽の地産地消も重要だと思います。そして茨城県には、まだまだ光を当てれば、光るものがたくさんありますので、それらを、水戸から発信して行くプロジェクトとしては、食あり、音楽あり、そしてアートもあると面白いと思いました。今後のビジョンをお聞かせ下さい。	事業団体	2016年からスタートし3回目の開催で28,000人のお客様を水戸の千波湖にお迎えできたことを大変うれしく思います。事故もなく無事開催ができたのは茨城県や水戸市、地元企業の皆様のバックアップの他なりません。多くの皆様からも声をかけていただき2020年も開催予定でしたが、東京オリンピック開催等で機材の調達や人件費高騰のため同規模開催は断念しました。現在実行委員会では不定期に会議を開催し、昨年同様の規模で開催するのか、規模を縮小して地元の人たちが沢山参加できたり、リラックスして楽しんでもらえる内容にするか検討していますが、結論は出ていません。茨城の美味しい食(地産)と素敵な音楽を集めて「茨城」を体感してもらうコンセプトには変わりませんが、開催が確定しましたら、ぜひご協力をお願い致します。